

## ニラ賛歌 Remix

北和真

### セーブデータ2

目が覚めるとそこは宇宙だった  
星は見上げる必要もなかった  
理性が脳に着陸した時、私が最初に感じたことは  
地平線が三次元、ということだった  
試しにもがいてみたが、手足に風を切るようなそういう感覚はなく  
抵抗のない滑らかな動きだった  
遅れて息はできるようだ、と気づいた時  
突如心の渴きを自覚した  
両の足は地を求めている  
遺伝子は引力を求めている

私が救助船の第二隔壁を通過したのは  
三日 後

筋肉質な肩に私はベランダに干された布団  
ブロンドの男は運が良かったなとだけ  
透き通るような白い歯を添えて  
ラジオはM o o n r i v e rを歌う

月に着いて  
私はニラじゃないんだと  
彼は言った  
記憶もまた

彼もまた

宇宙もまた

港を出るとカビ臭いスラムが広がっていた

真空と大気を隔てるドームは、もはや膜と言ってもいい

それほどに脆く見えた

私の親友（仮）は不揃いのヒゲ

人生はニラみてえなもんさね

奴はそう言った

中途半端なんだそうだ

美味くもないし不味くもない

歯に挟まるけどメニューから消えるのはやだ

欲望の臭いが漂う

酒場

に

F l y   m e   t o   t h e   m o o n

私の家だと言われた場所は今にも倒壊しそうなマンションの一室だった

長いこと空けていたらしく、ホコリが床をコーティングしていた

掃除をするために窓をかつぴらいて

とてもとてもきれいな夜空だった

大型プロジェクトの映すそれは私の見た宇宙とは真逆なのだ

へまた、生えてきたね

N o w   s a v i n g . . . .